

歯の歯垢（プラーク）には数億の細菌がいると言われています。

特に全身麻酔の際、この細菌が溜まったままだと
さまざまな合併症を引き起こす原因となります。



術後の肺炎

全身麻酔を伴う手術では、人工呼吸のための管を口腔内から入れます（挿管）。口の中の細菌が、気管挿管や誤嚥によって肺に入り込み、誤嚥性肺炎を引き起こす原因となります。



術後の創感染

口の中の細菌が、手術した部位で感染を引き起こしたり、血流に乗って心臓や人工関節などの他の場所に炎症をおこしたりすることがあります。



手術中の歯の破損

全身麻酔で気管にチューブを挿入する際に、動揺歯が当たって折れたり抜けたりする事故がおこること



周術期の口腔ケア実施により
さまざまな合併症の予防や
入院日数の減少に貢献します！

横須賀市立市民病院

